六ぴきのうさぎ　　モンゴル

昔むかし、ある湖（みずうみ）のほとりに椰子（やし）の木の森がありました。この森に、うさぎが六ぴき住んでいました。

あるとき、椰子の実がひとつ水に落ちて、ボトンと音を立てました。六ぴきのうさぎはびっくりしてにげだしました。うさぎたちが走っていくと、きつねに会いました。

「どうしてそんなにあわてふためいて走ってるの」と、きつねがききました。うさぎたちは、

「あそこで『ボトン』って声がしたんだ」と答えました。それを聞くと、きつねもあわててかけだしました。

うさぎたちときつねが走っていくと、さるに会いました。

「どうしてそんなにあわてふためいて走ってるの」

「あそこで『ボトン』って声がしたんだ」と、きつねが答えました。それを聞くと、さるもいっしょにかけだしました。

うさぎたちときつねとさるが走っていくと、雌鹿（めじか）に会いました。

「どうしてそんなにあわてふためいて走ってるの」

「あそこで『ボトン』って声がしたんだ」と、さるが答えました。そこで、雌鹿もいっしょにかけだしました。

うさぎたちときつねとさると雌鹿が走っていくと、こんどはぶたに会いました。

「どうしてそんなにあわてふためいて走ってるの」

「あそこで『ボトン』って声がしたんだ」

そこで、ぶたもいっしょにかけだしました。うさぎたちときつねとさると雌鹿とぶたが走っていくと、かもしかに会いました。

「どうしてそんなにあわてふためいて走ってるの」

「あそこで『ボトン』って声がしたんだ」

かもしかも走りだしました。

こうして、ぞうも、くまも、馬も、とらも、みんなあわてふためいてにげていきました。

山の近くまで来ると、王さまのようなたてがみのライオンに会いました。ライオンは、動

物たちが走ってくるのを見ていいました。
「おまえたち、どうしてそんなにあわてふためいてにげてるんだ。みんな、強いけづめやきばを持っているじゃないか」
すると、みんなはいいました。
「あそこで『ボトン』って声がしたんです」
ライオンは、
「その『ボトン』っていったのは、いったいなんだね。そいつはどこからやって来たんだね」
とききました。みんなは、
「それは知らないんです」と答えました。
「じゃあ、そんなにあわてふためいてにげることはないよ。まあ調べてみようじゃないか。おまえたち、それをだれから聞いたんだね」
ライオンがきくと、みんなは口ぐちにいいました。
「とらです」
「馬です」
「くまです」
「ぞうです」
「かもしかです」
じゅんばんにききただしていくと、しまいにきつねがいいました。
「六ぴきのうさぎに聞いたんです」
ライオンはうさぎたちに、
「おまえたちがその声を聞いたのかね」とたずねました。
「ええ、ぼくたち、そのおそろしい声をはっきり聞いたんです。こっちです。『ボトン』っていったやつを見てください」
六ぴきのうさぎはそういって、ライオンを椰子の木の森までつれていきました。みんなもいっしょについてきました。
「ほら、ここで、『ボトン』が聞こえたんです」
うさぎがそういったとたん、椰子の実がまたひとつ落ちてきて、ボトンと音を立てました。
ライオンは、

「なあんだ。あれは椰子の実が水に落ちる音じゃないか。こんなことでおどろくんじゃないよ」といいました。

すると、神さまの声が聞こえてきました。

ただのうわさで動くものではない
目をしっかり開けて、自分の目でよく見るのだ
椰子の実が落ちてきただけでも
森じゅうのけものがにげだすこともあるのだから

資料『世界の民話㉑』小澤俊夫／ぎょうせい
出典『語りの森昔話集一おんちょろちょろ』村上郁再話／語りの森